

平成20年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その1)

計画体系コード	2-1-2		事業名	大学や学生との連携による地域づくりの促進			
担当	市民まちづくり局地域振興部市民自治推進室市民自治推進課 國吉 211-2253						
全 体 計 画							
事業内容	<p>市内には大学や短大、専門学校をあわせて約8万人の学生が通学している。大学等の有する専門的な教育・研究機能や若い学生の活力は、地域のまちづくり(1)にとって知的・人的両面で重要な協働(2)の担い手である。今後ますます複雑多様化する地域課題を解決するため、こうした地域資源を活用しながら、持続可能なまちづくりを進めていくため、以下の事業を実施する。</p> <p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> まちづくりプレゼンテーション まちづくりのアイディア発表の場の提供 政策提言論文の募集 提言機会の提供 学生のネットワーク形成 学生の活動事例の情報共有など 市立大学との連携協働【中央区】 連携協働の仕組みづくりと協働での区実施プラン(3)策定 大学の特性を生かした協働事業【東区】 地域の大学の特性を生かした、心と体の健康づくり、子育て支援事業等の実施 地域と学生の連携促進【各区】 地域と学生が連携し、地域課題を解決する事業の実施促進 	<年度別事業内容> <p>19年度～22年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生まちづくりプレゼンテーションの開催 ・まちづくり活動を担う学生のネットワーク形成に向けた検討の実施 ・政策提言論文募集に向けた検討の実施 ・【中央区】市立大学との連携協働による仕組みづくりと協働での区実施プランの策定 ・【東区】地域の大学の特性を生かした事業の実施 ・【各区】地域と学生の連携促進を図る事業の展開 <p>1 地域一斉清掃や植栽などの環境美化活動や子どもやお年寄りの見守り活動など、地域(まち)が抱えている課題に対応して、さまざまな活動の実践により解決を図り、暮らしやすいまちを創っていく活動。</p> <p>2 それぞれが果たす責任と役割を自覚し、相互に補完し、協力すること。</p> <p>3 区の課題を解決するために実施する重点的な取り組みを定める計画。</p>					
事業内容・量・場所・規模・件数等	平成19年度事業内容(決算) <p>学生まちづくりプレゼンテーション開催 学生と地域の連携促進や学生のまちづくりへの参加促進、学生相互の連携化推進などを目的に、「学生と地域が連携して取り組む事例」などに関する学生の提案を広く市民に発表する場を設定。 市立大学との連携協働の仕組みづくり【中央区】 老人クラブ等への学生参加事業の実施に向け、市立大看護学部、区老人クラブ連合会等との連絡調整を実施。 地域の大学の特性を生かした事業の実施【東区】 ・天使大学と協働で「東区健康づくりフェスティバル」、「東区健康づくり支援」を実施。 ・札幌大谷大学と協働で「北光地区北光ビカビカ子育てフェア」、「北光地区心の健康づくり事業」を実施。 学生と地域の連携促進【各区】 各区の創意と裁量によって、学生と地域が連携して地域課題解決に向けた取組みを行う事業への支援を実施。</p>			平成20年度事業内容(予算) <p>学生まちづくりプレゼンテーション開催 「学生と地域が連携して取り組む事例」などに関する学生の提案を広く市民に発表する場を設定。 市立大学との連携協働の仕組みづくり【中央区】 ・老人クラブ等への学生の参加 ・けんこうフェスタ実行委員会への教員の参加 市立大学との協働での区実施プランの策定【中央区】 市立大学から意見を伺い、区実施プランに反映。 地域の大学の特性を生かした事業の実施【東区】 ・健康づくりフェスティバル(天使大との連携) ・健康づくり支援(天使大、札幌大谷大との連携) ・北光地区「健康相談会」支援(天使大との連携) ・北光ビカビカフェア実施(札幌大谷大との連携) 学生と地域の連携促進【各区】 各区の創意と裁量によって、学生と地域が連携して地域課題解決に向けた取組みを行う事業への支援を実施。</p>			
達成目標の状況							
項目	18年度末 (現状)	19年度末 (実績)	20年度末 (予定)	21年度末 (予定)	22年度末 (予定)	22年度末 (目標)	
学生プレゼンテーション大会開催数(累計)	1回	2回	3回	4回	5回	5回	
【参考】(中央区)市立大学との連携協働のしくみづくり	-	着手	継続	構築	継続	構築	
【参考】(中央区)しくみを活用しての区実施プランの策定	-	-	着手	策定	継続	策定	
【参考】(東区)地域と大学との連携事業数	1事業	4事業	5事業	未定	未定	4事業	
市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)							
<p>市民との連携・市民参加</p> <p>地域課題の解決に向けたまちづくり活動は、地域の方々の自主的・主体的な活動であり、本事業はそのような市民主体の事業の更なる活発化を図るために学生の参加を促進するための事業である。</p> <p>企業等との連携・協働</p> <p>【人材協力】大学などを通じて、「学生」という人材協力をいただいているほか、地域の様々な企業、団体等の方々がまちづくり活動に参画しており、若い柔軟な発想や行動力を持つ学生と地域が連携して、地域課題の解決等に向けたまちづくり活動が行われている。</p> <p>【情報協力】まちづくり活動の情報発信にあたり、学生が持つ独自のネットワークや地域情報誌などを活用させていただいている。</p> <p>市民・企業等が参加しやすい環境づくり</p> <p>本事業は、活力ある学生と担い手不足の地域が連携して地域課題を解決するとともに、まちづくり活動を持続的に行っていくことを目的とした事業であり、各地域の活動事例や学生のアイディアが広く市民に周知されることによって、地域のまちづくり活動への参加がよりし易くなるものである。</p>							

平成20年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その2) (単位:千円)

計画体系コード	2-1-2		事業名	大学や学生との連携による地域づくりの促進		
評価(成果)			課題			
<p>学生のまちづくりへの参加促進や、学生と地域が連携したまちづくり活動への支援を行ってきた結果、学生まちづくりプレゼンテーションには、5大学の学生が自発的に参加するとともに、その企画や運営にも自ら携わるなど、学生のまちづくりへの参加意識の高揚が図られた。また、各地域においても、学生と連携した新たな事業が数多く生まれており、学生の柔軟な発想や行動力が、地域の活性化に寄与している。</p> <p>【中央区】行政と市立大学が、互いに協力し合いたいという思いを持ちつつも、具体的に何をどうしていくのか、プランを定めていくのに時間がかかったが、老人クラブ等の厚意のもと、地域づくりとしての事業試行の展望を得ることができた。また、行政の事業計画の策定や大学の正課カリキュラムの作成など、双方の計画等の策定手法等を理解しあうことができ、今後、連携・協働のしくみづくりを進めていくうえで有益であった。</p> <p>【東区】看護や音楽、保育といった天使大及び札幌大谷大の特色を生かした、地域の健康づくりや子育て支援の連携事業が実現し、参加した区民の満足を得た。さらに、連携事業をきっかけに、学生が「ひがしく雪まつりウェルカム協議会事業」のボランティアとして、地域活動に参加するなど、地域住民と学生との距離感が縮まった。</p>			地域のまちづくりの更なる活発化に資する人材の育成には、学生が卒業しても地域まちづくり活動の担い手となるような意識付けや、担い手不足に悩む地域と活動に参加したい学生をつなぐ仕組みづくりが必要である。また、学生の活力やアイディアを活かすためには、優良なアイディアなどをまちづくりに活かす仕組みの構築が必要である。			
<p>【中央区】各老人クラブの集いは定例的なものだが、学生訪問の各回の内容・進行プログラムは流動的なものである。老人クラブ、市立大学、両者にとって意義のある集いとするためには、事前の情報交換を十分に行い、慎重にコーディネートしていく必要がある。</p> <p>【東区】現在は特定の地域を対象として実施しているが、参加者の広がり等を持たせるためには事業開催地区の拡大が課題である。また、健康づくり関連事業については、大学を会場とするものが多いが、地域住民の参加機会を増やすため、地域に出向いての事業展開も検討していく必要がある。</p>						
今後の事業の予定・方向						
<p>地域のまちづくり活動の新たな担い手の発掘・育成には、学生の若い活力が重要であることから、学生と地域が連携して地域課題の解決に取り組んでいくことができるよう、そして、より多くの学生がまちづくりに参加したいと思えるような事業を引き続き展開していく。</p> <p>【中央区】市立大学との連携協働については、区のコーディネイトで学生による老人クラブ等への訪問の決定など、既に具体的な事例が積みあがりつつある。このような市立大学との連携協働を「しくみ」として構築し、継続したものとするため、21年度より市立大学事務局職員に区実施プラン策定チームの正式メンバー(ふれあいプラン・ちゅうおう推進会議委員)へ加わってもらうことを検討しており、それが実現すれば、市立大学との連携協働のしくみづくり、しくみを活用しての区実施プランの策定、という2つの目標を同時に達成できると考えている。そして、この「しくみ」の活用により、区と市立大学とか情報交換を一層密にし、高齢者への保健福祉活動などの施策の地域展開事例を積み重ねていきたい。また、市立大学や老人クラブ等からも意見をもらい、PDCAサイクルを固めていく。</p> <p>【東区】18年度より地域と天使大学が連携して、健康づくりをテーマとした事業を展開しており、19年度からは子育てをテーマとした事業で大谷大学と連携している。音楽療法実践教室など、継続して実施することにより、効果がみられる事業もあることから、新規事業の開拓と併せて、継続的な事業展開が必要であり、地域と大学の連携事業を広げていくために、連携調整などのサポートを継続していく。</p>						
事業費の推移						
項目	19年度	20年度	21年度	22年度	計	
計画	事業費 財国・道支出金 源市債 内訳 一般財源	9,000 0 0 0 9,000	11,000 0 0 0 11,000	11,000 0 0 0 11,000	11,000 0 0 0 11,000	42,000
予算	事業費 財国・道支出金 源市債 内訳 一般財源	8,775 0 0 0 8,775	14,561 0 0 0 14,561	- 0 0 0 -	- 0 0 0 23,336	23,336
実績	事業費 財国・道支出金 源市債 内訳 一般財源	7,672 0 0 0 7,672	- 0 0 0 -	- 0 0 0 -7,672	- 0 0 0 7,672	7,672
事業費の進捗率	(19年度実績事業費 + 20年度予算事業費) / (計画事業費)				52.9%	
計画との差異(予算・事業内容・規模・時期等)						
(全体)						
[19年度]						
学生のネットワーク形成や政策提言論文については、実施の枠組み等の検討が必要であることから、19年度は実施までには至っていない。						
[20年度]						